



日本英語交流連盟  
The English-Speaking Union of Japan

## 【English-Speaking Union: International Public Speaking Competition 2012】

早稲田大学法学部 2年

山本健人

今年5月14日から19日にかけて私は、日本英語交流連盟のご協力を得て、ロンドンで開催された International Public Speaking Competition に出場させていただきました。17日、18日のスピーチ大会以外、ワークショップ、ロンドン観光、各国の代表との交流の時間があり、とても充実したプログラムでした。大会の結果は予選落ちという大変不本意なものとなってしまいましたが、この5日間は私にとって一生忘れることのできない思い出となり、私自身を大きく変える出来事となりました。

私が帰国して、一番の収穫は何かと聞かれたとき、私は間違いなくそれは【人とのつながり】と答えるでしょう。最初見ず知らずの同じ年齢層の52ヵ国、54人の代表者たちと5日後には、昔からの友人のように仲良くなっていました。国や文化は異なっても、みんな話好きで、騒ぐのが大好きな若者でした。毎晩夜遅くまで語っても飽きませんでした。韓国代表の友人とは、過去の暗い歴史的背景のせいで、日本と韓国がお互いにいまだに対立している事実を憂い、僕たちの世代でなんとか解決しようという胸が熱くなるような話をしました。レバノン代表の友人に、レバノン人はとても親日的であるということ、中東の人は実はとてもフレンドリーで冗談が好きだということを教えてもらいました。各国の友人の話を聞きながら自分の見聞を広げることができた一方で、自分が母国に対して驚くほど無関心であったことに気づかされました。友人に日本の人口、伝統芸能や文化について聞かれたとき僕は満足のいく答えをすることができませんでした。国際人になるための第一歩として自国を知ることの大切さを改めて考えさせられました。

Speech competition においては、私は自分の100%力を出し切ったのですが、世界の壁は高く、残念ながら予選を突破することができませんでした。しかし、各国の代表の素晴らしいスピーチを聞くことができたことは本当によかったです。彼らのスピーチと私のスピーチでは何が違うのか。僕のスピーチ（日本人全般のスピーチ）は書かれたスクリプトを一字一句暗記して発表するのに対し、彼らはこれだけは伝えたい3つの要点を押さえて、流れだけを頭にインプットし発表する方法をとっています。このやり方ができるようになるには、生きた英語に多く触れ、高いスピーキング能力が必要になります。当然後者の方が、臨場感がでて、聴衆との双方



日本英語交流連盟  
The English-Speaking Union of Japan

の意思疎通が可能になります。将来英語を使って人の前に立つ仕事がしたい私にとってとても良い勉強になりました。

最後に、このような世界レベルの舞台に立つ二度とない機会を与えてくださり、スピーチのご指導までしていただいた日本英語交流連盟 沼田会長、縣副会長 に、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。ここで得た経験を生かして、さらに成長をしていきたいと思ひます。

